

第4学年 体育科 学習指導案

日時:令和3年11月2日(火)5校時

場所:高越小学校 運動場

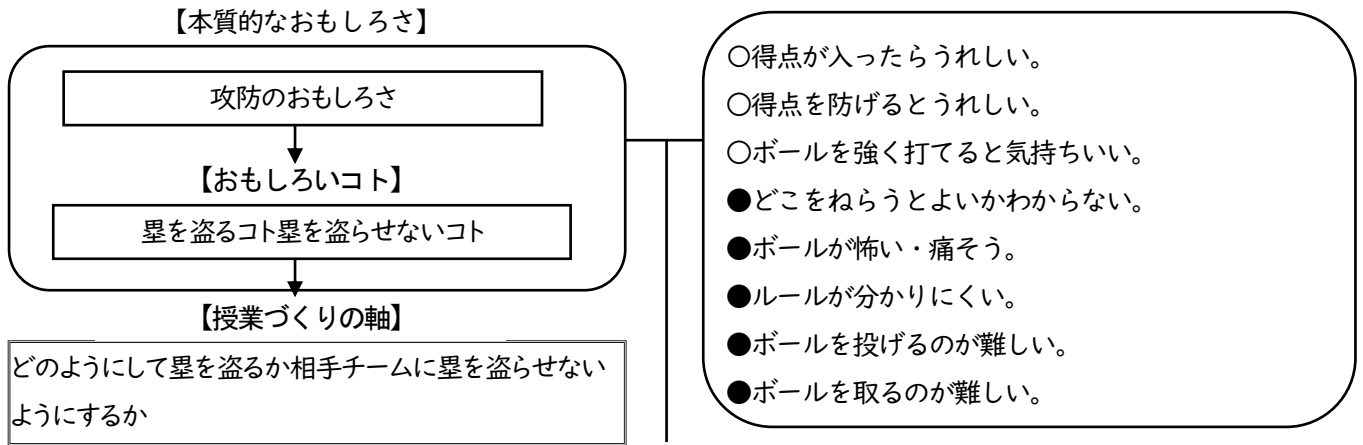
指導者:T1 山下 昌則

T2 明石 淳

1 単元名 塁とれ!高越っ子ベースボール!

2 授業づくりの考え

【子供からみたベースボール型ゲームのイメージ】



【教師の意図】

(1) 子供の実態

本学級の子供たちは、3年生の時に、スローイングベースボールを学習し、「どのようにして塁を盗るか塁を盗らせないようにするか」という攻防するおもしろさを経験してきている。子供たちは、攻防のおもしろさを体験・思考しながら学習するということを意識して学習に取り組んできた。しかし、アンケート調査を実施してベースボール型ゲームのイメージを聞いてみると、野球等の運動経験が少ないことや、ボールに対する恐怖心、ルールの複雑さなどに苦手意識や抵抗を感じている子供が多くいることが分かった。

(2) おもしろいコトの共有を図る環境(用具と場)と問いの設定

ベースボール型のゲームは、攻撃側が打ったボールを守備側がアウトゾーンに送るのが早いか攻撃側が塁を盗るのが早いかを競う運動である。まず、苦手意識のある子供たちが抵抗なく参加、挑戦できるような用具や場、ルールを設定しゲームを行い、おもしろいコトの共有を図る。そこで、単元の前半では、ワンベース型のティーボールに取り組む。ボールは、直径約15センチの低反発のボールを使う。ボールを前に飛ばすために、足で蹴っても、手やバット、テニスラケット等で打ってもよいこととする。場の設定としては、塁を盗るごとに点数が増えていくようにする。そうすることで、子供たちが自分にとって扱いやすい用具を選び、さらに点が取りやすい状況を作ることで意欲的に学習に取り組むことができると考える。また、アウトゾーンをチームで決めることができるようにする。2か所のアウトゾーンを設定し、塁を盗られるよりも早くボールを運ぶことができればアウトにするというルールにすることで、意欲的に取り組めると考える。授業の最後の振り返りでは、どんなことがおもしろかったのかを問いかけ、おもしろいコトの共有を図る。

(3) 単元の展開と主な支援

おもしろいコトの共有が図れたら、「どのようにして塁を盗るか塁を盗らせないようにするか」という単元を通した問いを提示し、自分なりの課題を追求しながらベースボール型ゲームに挑戦できるようにしていく。これまでの学習では、自分やチームの課題を深く追求したり、多様な考えをもとに協働したりする学びが十分ではない場面も見られたため、友達と関わる中で見つけた課題をチームで共有し学習を進めていきたい。友達と協働的に取り組むことで、見通しをもって学習に参加したり、塁を盗ったり、盗らせないようにするための作戦やベースボール型のゲームの楽しみ方などの新たな価値を見付けたりすることにつながると考える。このような活動を通し、自ら主体的に学び続けられるようにしていきたい。

3 目標

- ベースボール型ゲームの楽しさや喜びを味わい、自分がボールを取らなくてもアウトにすることができる等の新たな価値を見付け、その行い方を理解するとともに、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームを行うことができるようにする。【知識及び技能】
- 見通しをもって学習に参加し、どのようにしたら塁が盗れるか、盗らせないようにできるかを考えた作戦を選ぶとともに、おもしろいコトに関して困ったことやできたことを友達に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ベースボール型ゲームに挑戦し、ルールを守り、助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

4 単元のイメージ(見)：「見通しをもって参加する力」(新)：「新たな価値を見付ける力」(仲)：「仲間と協働して課題を解決する力」

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
学習活動と子供の主な学びの姿・環境	ワンベース型ティーボールに挑戦する。		ベースボール型のゲームに挑戦し、自分なりのめあてをもって学習に取り組む、課題解決に向かっている。					
	ベースボール型のおもしろいコトを共有している。		これまでの学習で得た情報を活用し、課題を追求している。			友達と情報を共有したり、新たな課題を見付けたりしている。		
用具	低反発ボール、軍手、バット、ラケット、ティー台		低反発ボール、軍手、バット、ラケット、ティー台					
場	ワンベース型		三角ベース型					
発揮されている姿	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いに動きを見せ合いながら、協働して課題解決しようとしている。(新)(仲) ・チームの課題に応じた作戦を選択したり、動き方を試したりするなどして課題解決しようとしている。(見)(新) ・チームとしての攻め方、守り方にこだわりをもってベースボール型のゲームに夢中になって、進んで取り組んでいる。(見)(新) ・友達のよさや自分のよさを見つけている。(新) 							

5 本時の目標と展開 (4/8)

(1) 本時の目標

- ゲームの中での役割をチームで相談し、友達と対話的に活動することを通して、「どのようにすれば塁を盗ることができるか」を、考えてゲームをすることができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	学習活動と子供の姿	子供の状況把握の視点	教師の支援
5	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の問いを確認して課題を持つ。</p> <p>・本時の課題を確認する。</p> <p>【本時の問い】</p> <p>どのようにすれば塁を盗ることができるだろうか</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の子供の振り返りから「問い」や「環境」を調整してゲームを行うことができるようにする。
10	<p>2 課題を解決するために、チームで話し合う。</p> <p>・チームで作戦を選んだりゲームの中での役割を相談したりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どのようにすれば塁を盗ることができるか」を考えて作戦を選んだり、役割を相談したりできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの学習で出てきた作戦やゲームの中での役割を参考にできるようにする。 教師が話し合いに入り、アドバイスできるようにする。
20	<p>3 課題を解決するためのゲームを行う。</p> <p>・前半終了後に、後半に向けて作戦を話し合い、後半の試合を行う。</p> <p>・ゲームが終わるとチームで振り返りを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どのようにすれば塁を盗ることができるか」という課題に対して見通しをもってゲームに取り組んでいる。 ① どこをねらうと塁が盗れるかわからずゲームに参加できていない。 ② 自分が考えたことをうまく友達に伝えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 どこをねらって打つとよいかやどのように守ればよいか教師がそばでアドバイスをする。 ①-2 友達同士でアドバイスできるように教師がつながるようにする。 ② 自分たちがやりたいことができたかどうかという振り返りの視点を明確にし、チームで振り返りをするように促す。
10	<p>4 本時の学習を振り返り、次時への学習意欲をもつ。</p> <p>* 本時の学習で分かったこと気付いたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちのチームなりの「塁を盗る盗らせない」動きや作戦を考えることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちのチームでうまくいった動きや作戦をみんなで共有する。